

木材需給動向について (九州地区)

令和2年11月
林野庁

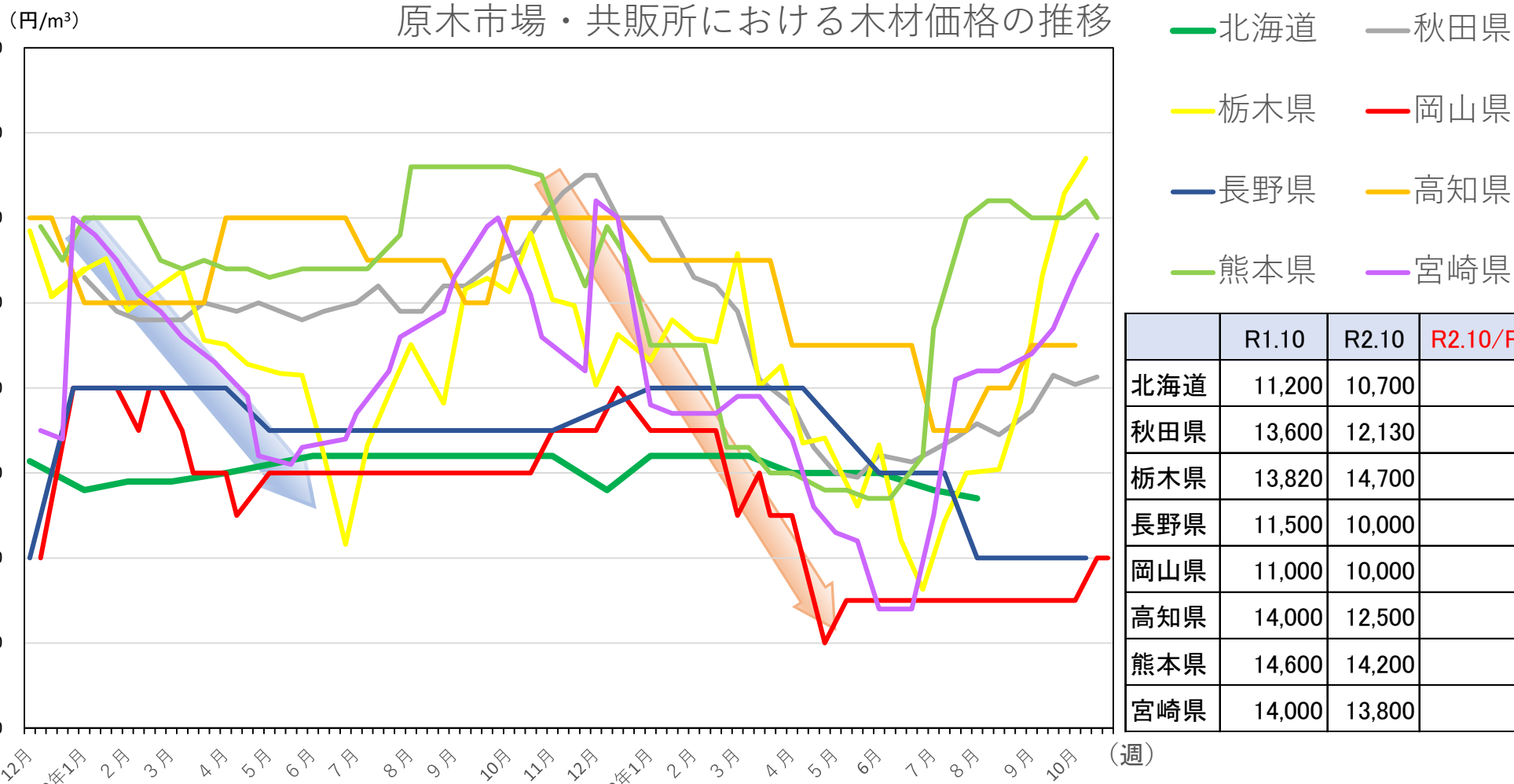
目次

- 1 価格の動向
 - (1) 直近の価格推移（原木市場・共販所）
 - ア スギ（全国）
 - イ スギ（九州地区）
 - ウ ヒノキ（全国）
 - (2) 製品価格の推移・動向
- 2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向
 - (1) 製材（全国・九州地区）
 - (2) 合板（全国）
 - (3) チップ（全国）
- 3 住宅着工戸数の動向
 - (1) 住宅着工戸数の推移
 - (2) 九州地区の新設住宅着工
- 4 主要木材の需給見通し

1 価格の動向 (1) 直近の価格推移 (原木市場・共販所)

ア スギ (全国) φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

- ・ 例年12月から梅雨時期まで原木価格は下落する傾向にあるが、本年は下落幅が大きくやや急となっている。
- ・ 6月下旬から、栃木県、熊本県、宮崎県では価格の回復が見られる。
- ・ 本年10月のスギ原木価格は、**対前年比13%減~6%増**。



注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。径級は24.0cm程度、長さは3.65~4mの中目原木。

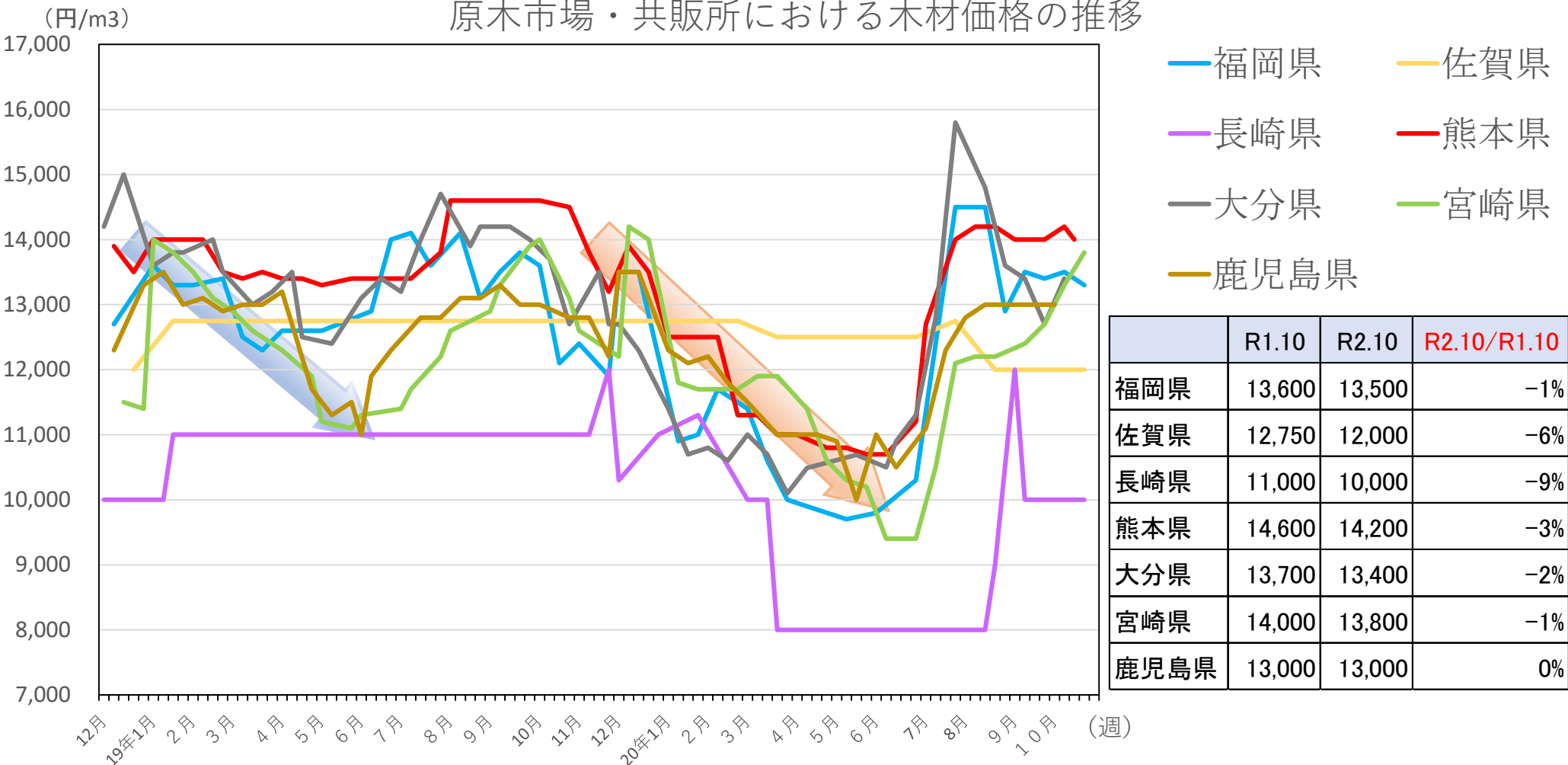
注2：都道府県が選定した特定原木価格・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

イ スギ（九州地区） φ24cm程度、3.65～4.0m（平成30年12月～）

- ・ 例年12月から梅雨時期まで原木価格は下落する傾向にあるが、本年は下落幅が大きくなっている。
- ・ 7月に入ってからの価格が急上昇しているが、豪雨災害による出材減が要因と考えられる。
- ・ 本年10月末のスギ原木価格は、**対前年比0～9%減**。

原木市場・共販所における木材価格の推移



注1：都道府県が選定した特定のスギ原木価格・共販所の価格。

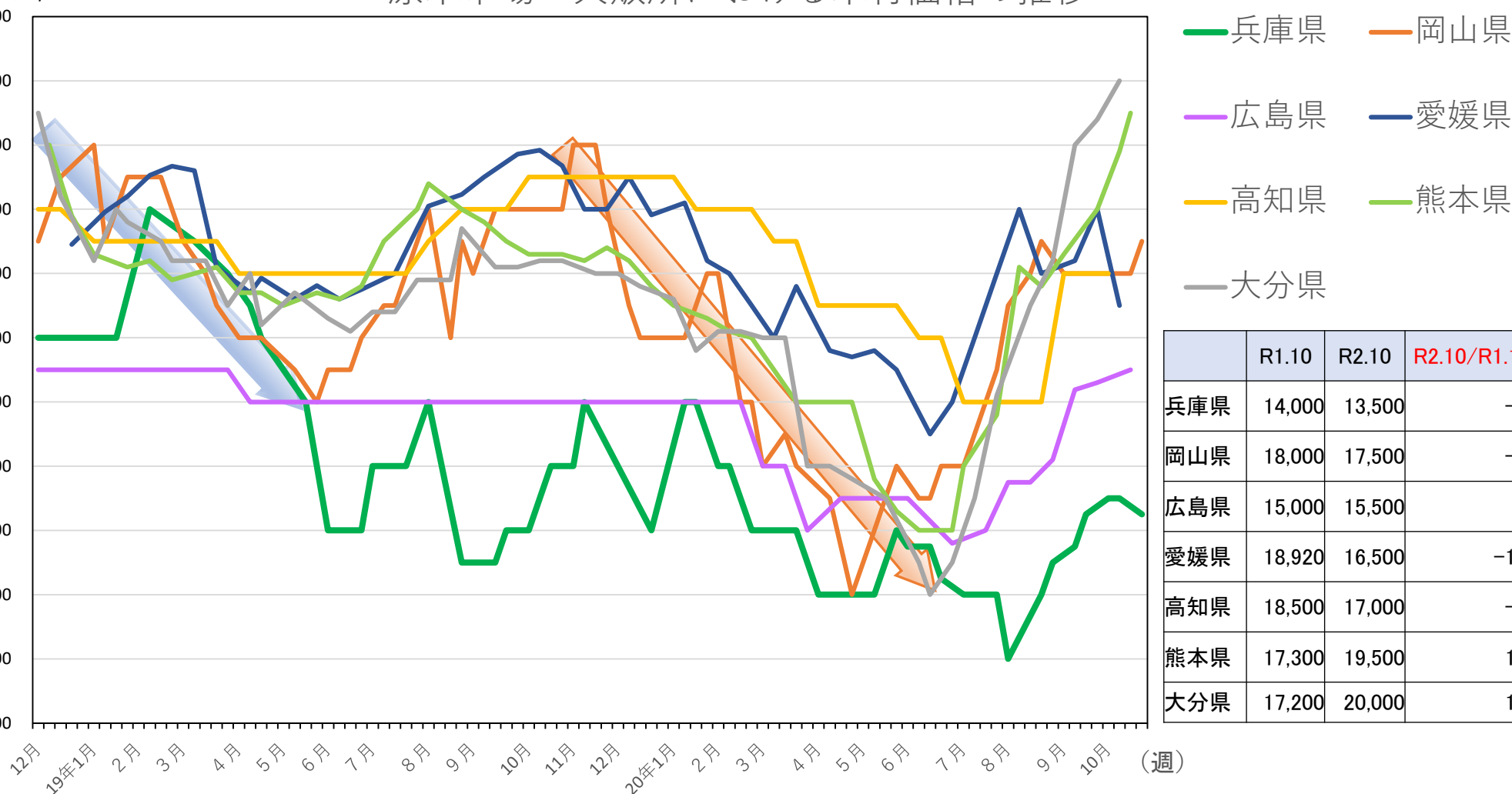
資料：林野庁木材産業課調べ

ウ ヒノキ (全国) φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

- ・ ヒノキにおいてもスギと同様に例年以上の下落幅となっている
- ・ 本年10月末のヒノキ原木価格は、**対前年比13%減~16%増**。
- ・ 本年7月以降、岡山県、広島県、熊本県、大分県では価格が回復傾向。

原木市場・共販所における木材価格の推移

(円/m³)



注：都道府県が選定した特定の原木価格・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

(2) 製品価格の推移・動向

- ・製品価格は原木価格と異なり季節変動はないが、本年は価格の下落が見られる。
- ・住宅の着工動向によっては、今後も下落の傾向が続く可能性。

○ スギ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/m³]

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
北海道 (エゾ・トド)	67,700	→67,100	67,100	67,100	67,100	67,100	67,100	-
東北	58,000	58,000	58,000	58,000	→55,000	55,000	55,000	55,000
首都圏	54,000	→53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	→54,000
名古屋	65,000	65,000	65,000	→60,000	→55,000	55,000	55,000	55,000
大阪	55,000	55,000	→54,000	54,000	→52,000	→50,000	50,000	50,000
広島	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000
九州	52,000	→50,000	50,000	→48,000	48,000	→47,000	→46,000	46,000

○ ヒノキ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/m³]

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
首都圏	66,000	→65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
名古屋	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
大阪	64,000	64,000	→63,000	63,000	→61,000	→59,000	59,000	59,000
広島	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
九州	62,000	62,000	→61,000	61,000	61,000	→60,000	60,000	60,000

※九州のみ120×120×3000mm

○ スギ集成管柱 105×105×3000mm [円/本]

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
北海道 (エゾ・トド)	2,000	2,000	→2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	-
北海道 (カラマツ)	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	-
東北	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
大阪	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750
広島	1,900	→1,880	1,880	1,880	→1,860	1,860	1,860	1,860
九州	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800

○ 針葉樹構造用合板 12×910×1820mm [円/枚]

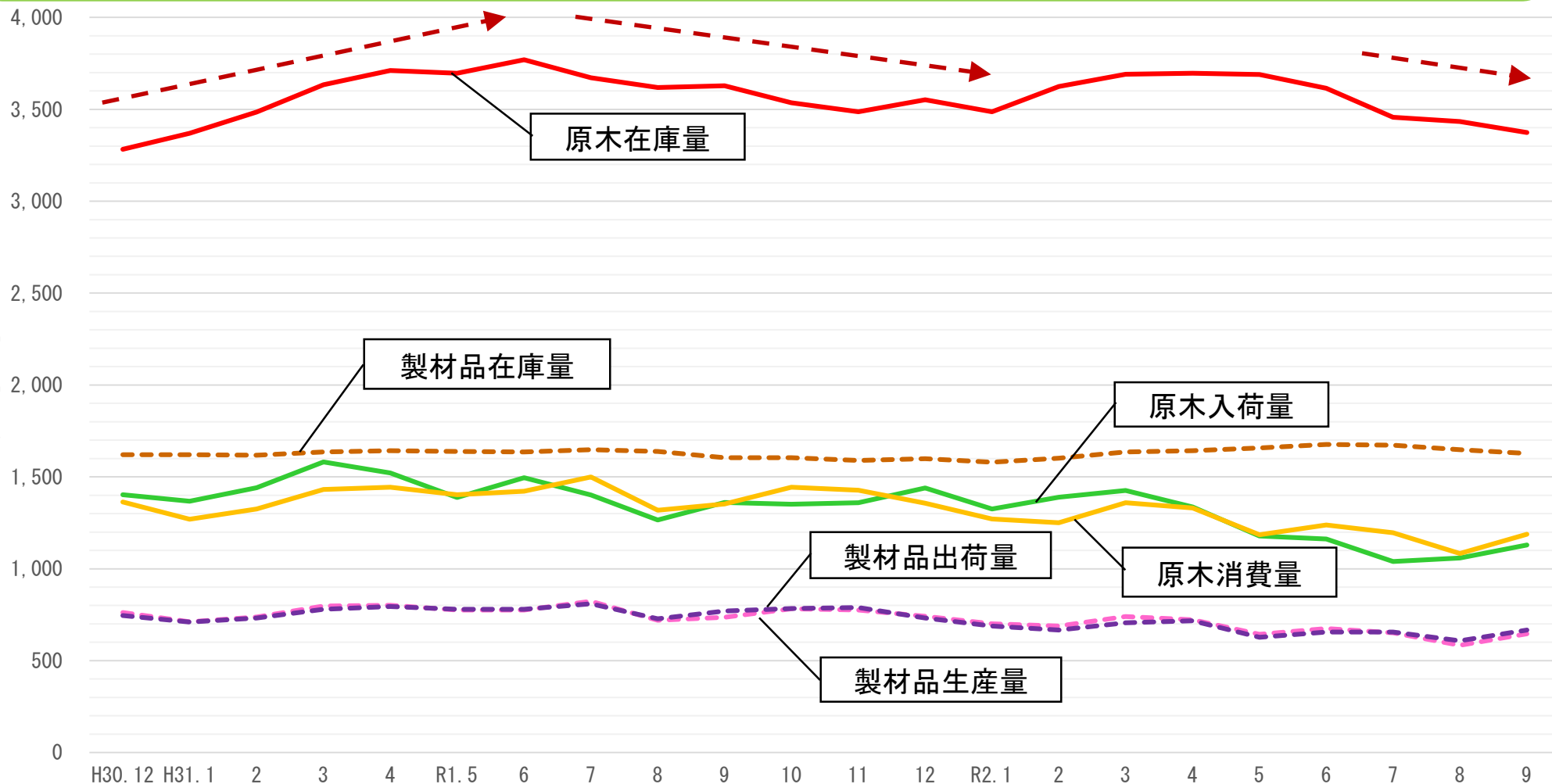
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
東北	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	→950	950	950
首都圏	1,050	→1,030	1,030	→1,010	→980	→950	950	→940
名古屋	1,050	→1,020	1,020	→1,000	→960	→930	930	930
大阪	1,050	→1,010	→1,000	→990	→950	→920	→900	900
広島	1,070	→1,050	→1,030	1,030	→1,000	→950	→930	930
九州	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

2 工場原木の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

「製材統計」によると、

- ・ 製材品の生産量、出荷量は年間を通じて大きな変化はないが、5月以降緩やかに減少していたが、9月は若干増加（グラフの破線部分）。
- ・ 原木の入荷量、消費量は2、3ヶ月単位で、在庫量は半年単位で増減を繰り返す傾向。
- ・ 現在、原木の入荷量・消費量は若干の増加傾向、在庫量は減少に移行しつつある。

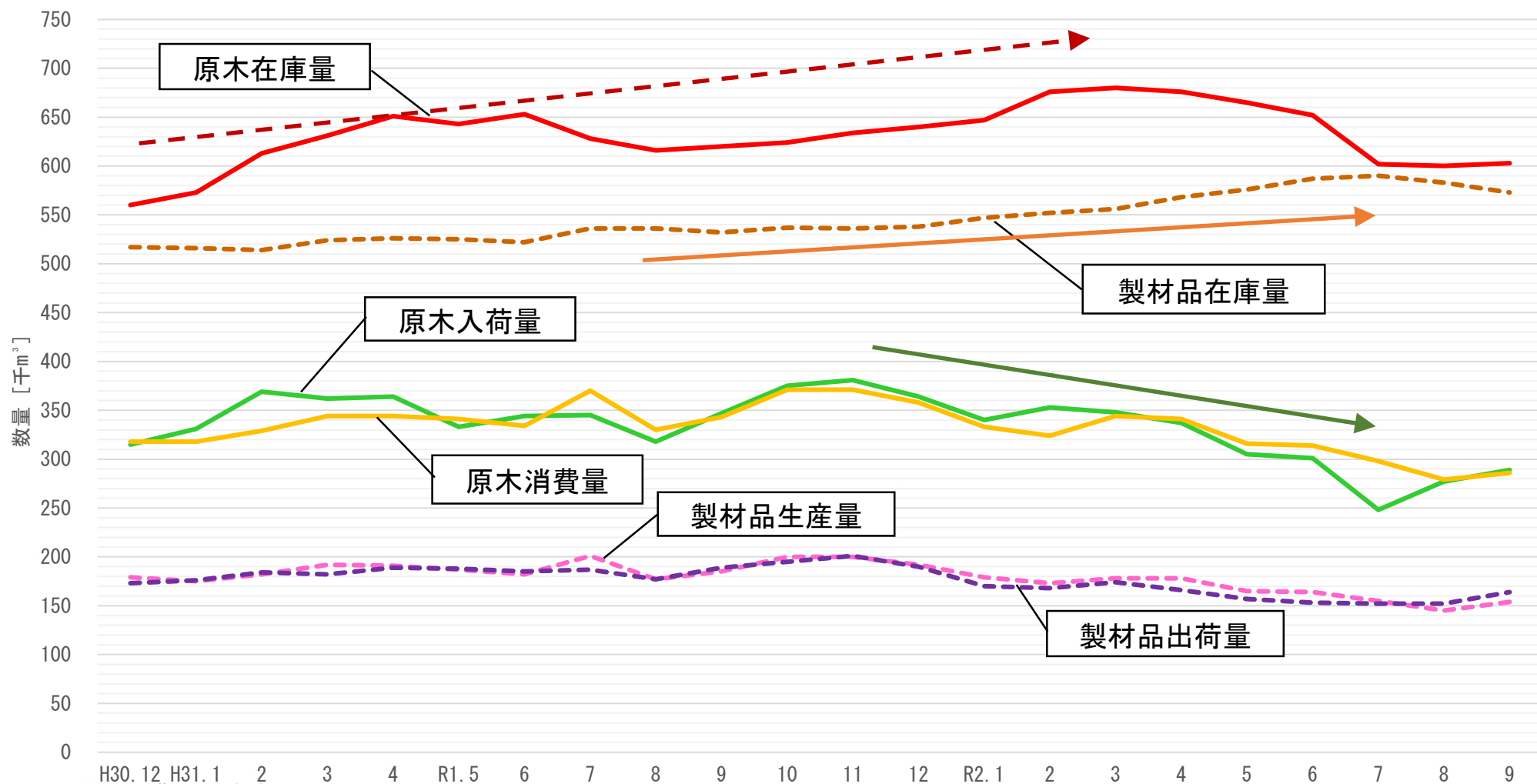


資料：農林水産省「製材統計」

(1) 製材 (九州地区)

「製材統計」によると、九州地区では、

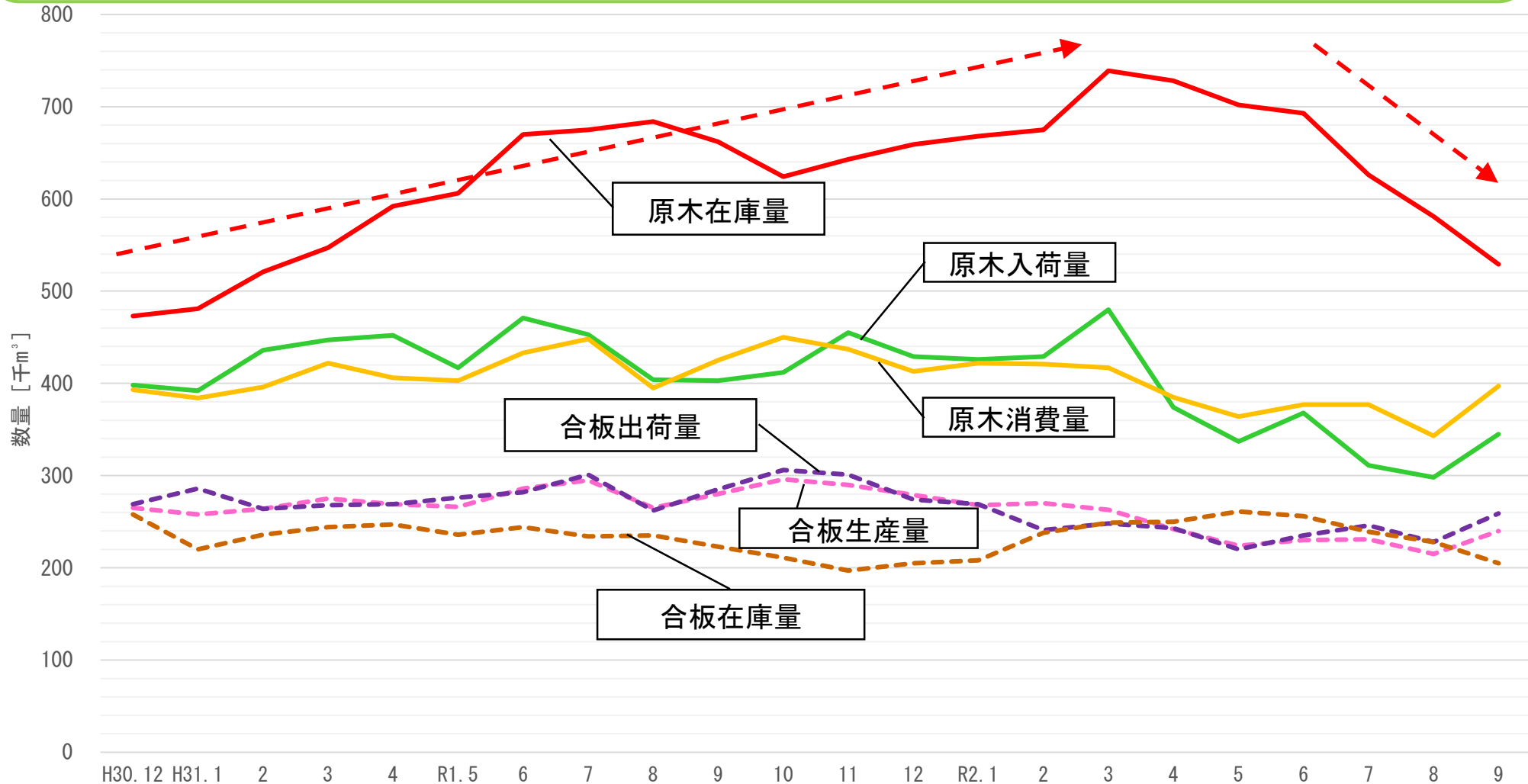
- ・ 製材品の生産量、出荷量は昨年12月から減少傾向。一方、在庫量は一貫して増加傾向にあったが8月以降減少傾向。
- ・ 原木の入荷量、消費量は昨年11月以来減少のトレンドにあったが、入荷量は8月以降増加している。一方、在庫量は中期的に増加傾向にあったが、7月に減少した。



(2) 合板 (全国)

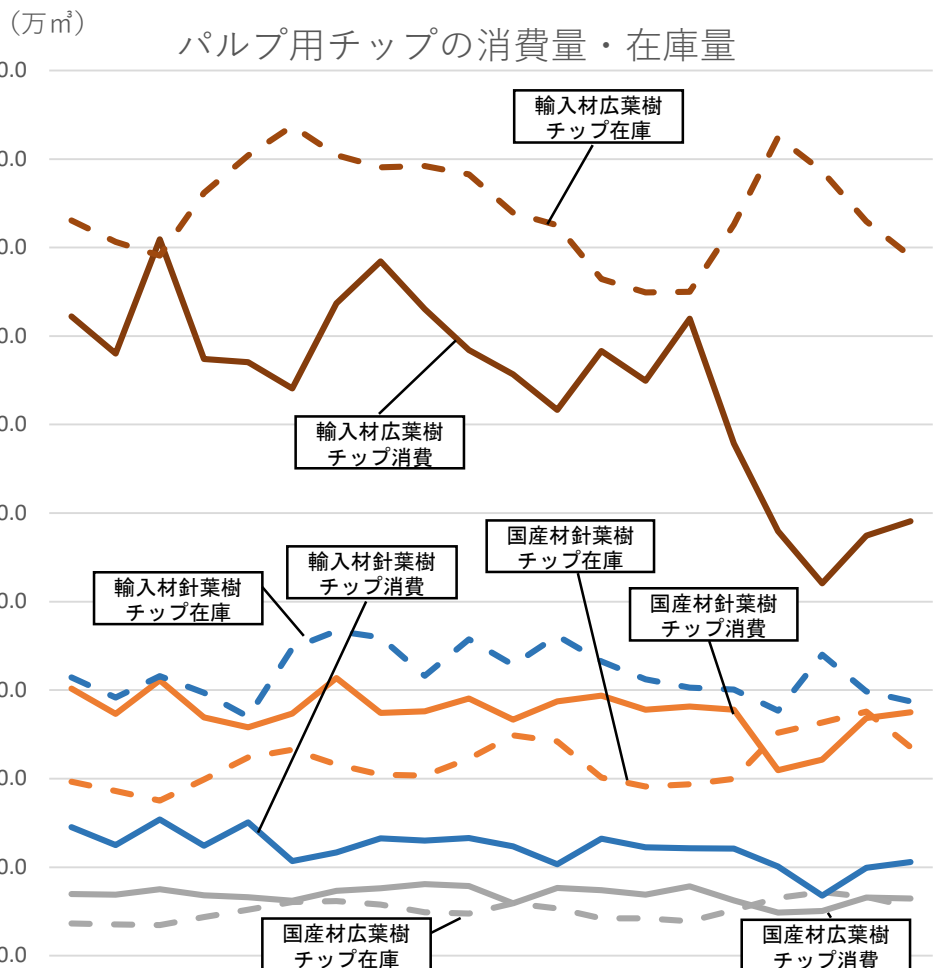
「合板統計」によると、

- ・合板の生産量、出荷量は昨年10月以降、減少傾向にあったが、横ばいから増加へ移行。製品在庫量は増加傾向にあったが、5月以降、減少傾向（グラフの破線部分）。
- ・原木の入荷量、消費量は、数ヶ月単位で増減を繰り返している。4月以降の入荷量は急激に減少。9月は、増加。
- ・原木の在庫量は増減を繰り返しつつ長期的に増加していたが、4月以降再び減少傾向が続いている。



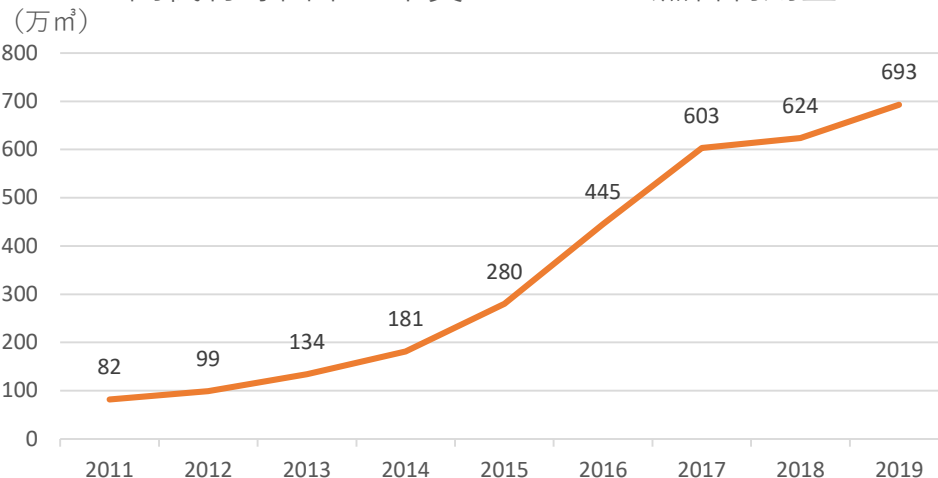
(3) チップ (全国)

- ・ **パルプ用チップの消費**について、**輸入広葉樹チップ**は今年4月から**激減**。**国産針葉樹チップ**も今年5月に大きく**減少**。
- ・ **パルプ用チップの消費減少**については、**印刷・情報用紙の生産減**が**原因**と考えられる。
- ・ **木質バイオマス発電向け燃料**については、**増加傾向**が続いている。



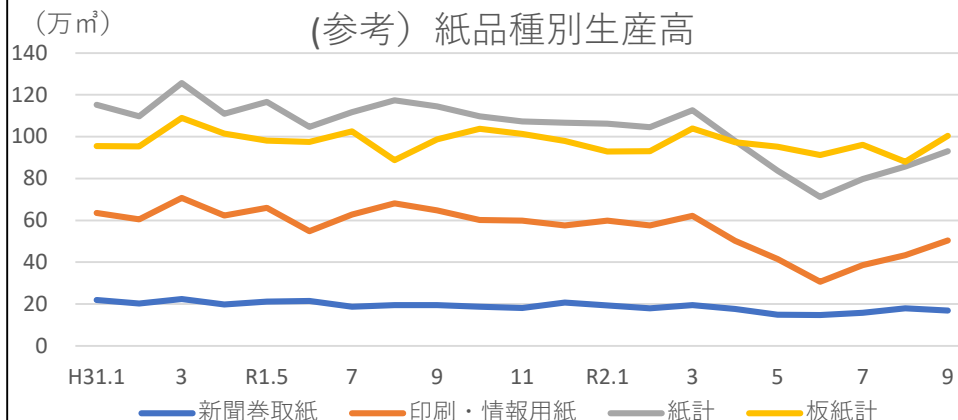
資料：経済産業省「経済産業省生産動態統計年報 紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編」

間伐材等由来の木質バイオマス燃料利用量



出典：木材利用課調べ（～平成26年）、林野庁「木材需給表」（平成27年～）

(参考) 紙品種別生産高

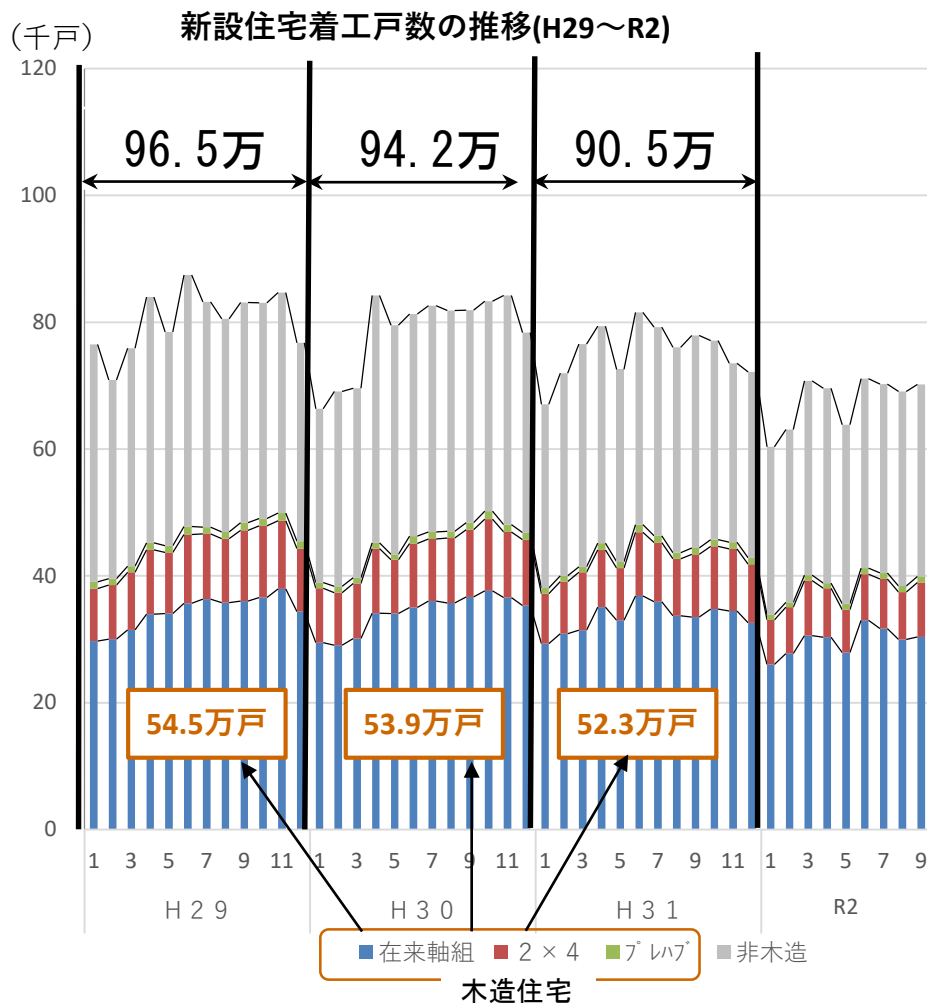
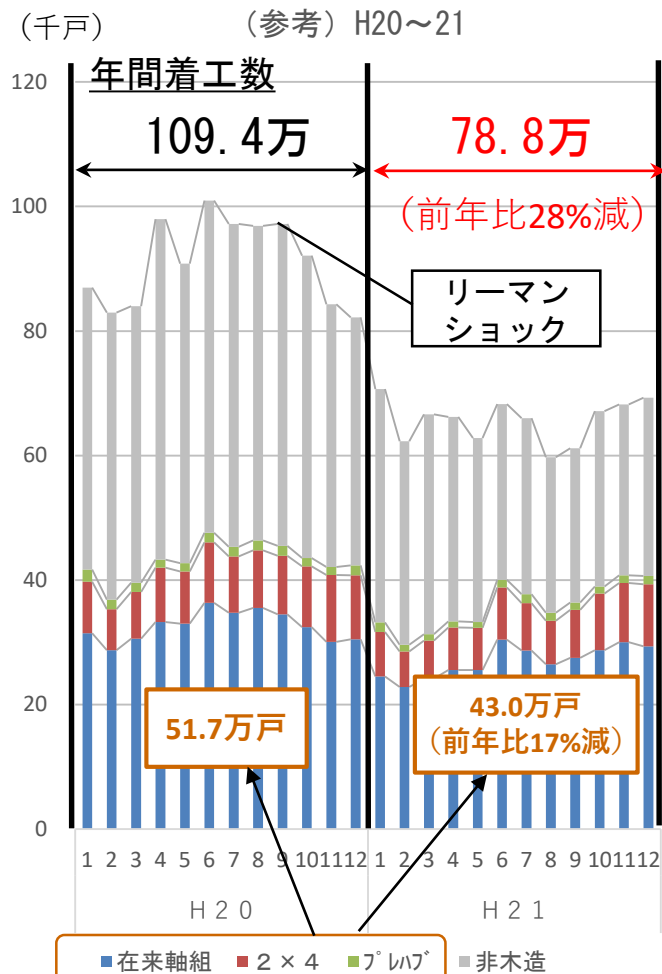


資料：経済産業省「経済産業省生産動態統計年報 紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編」

3 住宅着工戸数の動向

(1) 住宅着工戸数の推移 (平成20年1月～令和2年9月)

- ・ 昨年度の新設住宅着工戸数は、90.5万戸。そのうち、木造住宅は52.3万戸（57.8%）。
- ・ 令和2年度1～9月の木造住宅着工戸数は、34.4万戸（前年比11.6%減）。
- ・ 緊急事態宣言の発令により、大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少した影響が懸念されるが、まだ着工戸数に目立った落ち込みは見られない状況。



令和2年1～9月期
住宅着工戸数

総計 60.8万戸
(前年比10.9%減)

非木造 26.4万戸
(前年比9.9%減)

木質プレハブ 0.8万戸
(前年比11.2%減)

2×4 6.9万戸
(前年比15.0%減)

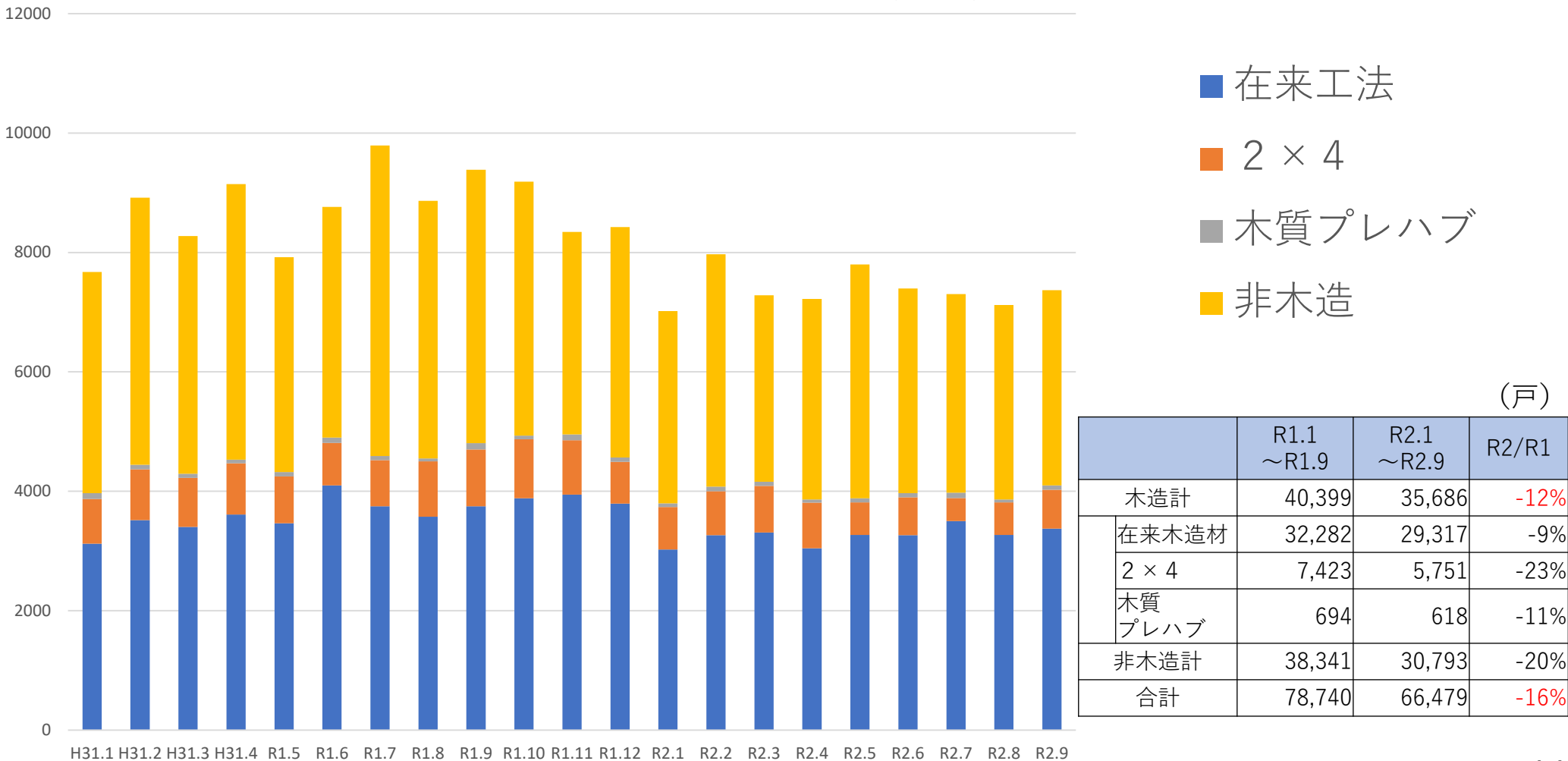
在来木造 26.8万戸
(前年比10.7%減)

木造34.4万戸
(前年比11.6%減)

(2) 九州地区の新設住宅着工 (平成31年1月～令和2年9月)

- 九州地区の新設住宅着工戸数について、今年1～9月期の昨年同期の実績を比較すると、全体として**16%減**となっており、**非木造 (20%減)** に比べ**木造 (12%減)** の減少幅が小さくなっている。

新設住宅着工戸数 (九州)



4 主要木材の需給見通し（令和元年第2四半期～令和3年第1四半期）

林野庁が主催する木材需給会議（9月28日開催）では、今後の需給見通しを以下のとおり見通している。

- ・国産製材用丸太は、第2四半期に前年同期比85.0%に減少したが、第3四半期以降増加に転じる見込み。
- ・国産合板用丸太は、第2四半期に前年同期比81.8%に減少したが、第4四半期以降に反転する見通し。
- ・合板の国内製造は、第2四半期に前年同期比84.8%に減少したが、第4四半期以降に反転する見通し。

（下段は前年同期比）（カッコ内は前回までの見込み）（単位：千m³）

年	四半期	区分	丸太			輸入 製材品 計	合板		構造用集成材	
			国産材		輸入 計		国内製造	輸入	国内製造	輸入
			製材用	合板用		計				
令和元年 (平成31年)	第2（4-6月）	実績	3,366	1,256	827	1,567	821	614	475	210
			103.1%	108.4%	104.1%	94.8%	100.8%	79.2%	102.2%	92.1%
	第3（7-9月）	実績	3,046	1,190	658	1,501	841	589	490	218
			103.9%	111.5%	83.7%	99.8%	104.7%	89.2%	108.9%	110.6%
	第4（10-12月）	実績	3,324	1,212	715	1,352	865	648	505	214
103.9%			111.5%	83.7%	99.8%	104.7%	89.2%	108.9%	110.6%	
年計			13,108	4,839	3,026	5,795	3,324	2,535	1,915	839
			103.3%	108.1%	94.0%	94.4%	103.3%	86.7%	105.5%	103.2%
令和2年	第1（1-3月）	実績	3,222	1,217	649	1,261	801	633	460	212
			95.6%	103.1%	78.6%	91.7%	100.5%	92.5%	103.4%	107.6%
	第2（4-6月）	実績	2,861	1,027	555	1,461	696	616	465	256
			85.0%(77.2%)	81.8%(87.6%)	67.1%(74.8%)	93.3%(83.9%)	84.8%(88.9%)	100.4%(99.7%)	97.9%(97.9%)	121.9%(104.8%)
	第3（7-9月）	見込み	2,900	960	562	1,328	680	486	410	280
95.2%			80.7%	85.4%	88.5%	80.9%	82.5%	83.7%	128.5%	
第4（10-12月）	見通し	2,900	980	476	1,230	700	518	365	220	
		87.2%	80.9%	66.6%	91.0%	80.9%	79.9%	72.3%	102.8%	
年計			11,883	4,184	2,242	5,280	2,877	2,253	1,700	968
			90.7%	86.5%	74.1%	91.1%	86.5%	88.9%	88.8%	115.4%
令和3年	第1（1-3月）	見通し	3,000	1,000	545	1,270	700	527	365	250
			93.1%	82.2%	84.0%	100.7%	87.4%	83.3%	79.3%	117.9%